

大成功に終わった第55回南翔祭



南翔

令和3年9月21日
文：校長 丹沢伸也

19日の日曜日、第55回南翔祭が行われました。コロナ禍による県の特別要請と台風14号の影響で、2度に渡って延期を経て実施しました。当日は台風が過ぎた秋晴れの元、絶好のコンディションの中、生徒たちはこれまでの取り組みの成果を遺憾なく発揮し、大成功を収めることができました。

開祭式・学芸の部

「ただいまよ

り、市川南中学校、第55回南翔祭の開祭を宣言します」。生徒会長、寺澤将二さんの力強い宣言を合図に、全員でクラッカーを鳴らし学芸の部が幕を開けました。コロナ禍のため、参観者は各家庭より2名までとし、感染症対策を行った上での実施となりました。学芸の部は、オープニングセレモニー、各学年による演劇、学年合唱、そして全校合唱です。それぞれの発表の様子を紹介しましょう。

1年演劇

1年生は、日本の昔話、「笠地蔵」を英語で発表。台詞は英語でしたが、動きも交えながら物語の内容がしっかりと伝わりました。1年生ながら、まだ習っていない表現を覚え、発表するのは大変だったと思いますが、立派な発表でした。



2年演劇

2年生の発表は、「グッジョブ」。ドタバタ劇を通して、家族のあり方や温かさが伝わる内容でした。一人が何役もこなしながら、テンポよく進んでいく内容で、明るく元気

な2年生にぴったりと合った発表でした。



3年演劇

3年生は、湯本香樹実の小説「夏の庭」を元にした劇の発表でした。2人の少年と老人との交流を通して、戦争の悲しさを織り交ぜながら、生きることに考えている物語です。2人だけで演じた発表でしたが、ナレーションや場面転換等を工夫し、2人でもしっかりと物語の世界観を創り上げました。



合唱

1年生は「花は咲く」、2年生は「夢のかなう場所へ」、3年生は「種」、そして全校合唱では「未来へ」を発表しました。小さな学校の良さを生かし、感染症対策に取り組みながら、合唱が実施できたことは有り難く、そんな気持ちが生徒からも伝わる発表でした。合唱活動が学級、全校で取り組める貴重な表現活動、創造的活動であることを実感させられました。



体育の部・閉祭式

午後の体育の部は、3つの縦割り班対抗による4つの体育種目が行われました。どのような競技にすれば良いか、感染症対策を考えて、生徒と職員が



では、先生の手加減も添えてくれました。4種目を合計した結果は、3つの班が同点で、全チーム優勝と微笑ましい結果に終わりました。

閉祭式・エンディングセレモニーでは、各学年、部門の代表による一日の振り返りの発表、取り組みと当日を振り返るスライド、そして学園祭のテーマソングをみんなで歌いました。生徒会長の閉祭宣言とともに、アルミ缶回収活動を資金にした火花が上がりました。取り組みと一日を思い返しながら、これまでの取り組みと一日を思い返しました。

お知らせ

15人という少ない人数のため、一人一人ががんばらないと出来あがらない南翔祭。全員がそれを当たり前のことのように取り組み、活躍した2週間でした。取り組み、当日にも生徒みんなが輝いていました。「一人一人が活躍し、輝く学校をつくりたい」生徒会が目指す姿は、十分に達成できている、そう実感できた南翔祭でした。



2年ぶりの鯉沢警察署管内交通安全大会が、ビデオ審査という実施方法でしたが2年ぶりに開催されました。本校からは3年生の2人が参加したわけですが、防犯弁論の部で寺澤将二さんが努力賞を、そして交通安全の部では、中山太希さんが、見事優勝を果たしました。参集しての開催でなかったため、賞状が後日届けられ、学園祭の総練習の場で、全校生徒の前で手渡されました。





第55回南翔祭スナップ

